

CSJ Annual Report
2021

日本化学会アニュアルレポート

目次

Top Message … 01

日本化学会中長期基本戦略（2020年～2025年） … 02

2020年度COVID-19に関連した
化学会の対応・2021年度活動方針 … 03

春季年会・CSJ化学フェスタ … 04

講演会・講習会・実験教室の開催 … 06

化学を広める・未来の化学者を育てる … 08

キャリア支援 … 10

論文誌・出版 … 12

社会に向けた様々な取り組み … 14

グローバリゼーション … 15

表彰事業 … 16

企業・団体からのご支援 … 17

化学会概要 … 18

会計報告 … 20

ノーベル賞受賞会員

日本化学会とは

日本化学会は、化学を中心とする多様な領域の研究者・技術者・教育者・学生が研究成果を発表し、交流する日本を代表する化学者コミュニティです。その目的は、産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することにあります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



日本化学会はSDGsを推進した活動を心がけています

Top Message

——世界の化学会を目指して



地球と共存する化学

現代は、人類が今までに経験したことのない革命期に入っています。新型コロナウイルスの感染拡大が始まる前から既成概念が覆されるような急激な環境変化が起きていましたが、今般のパンデミックによってデジタルトランスフォーメーションが一気に加速し、サプライチェーンの変革も進みました。そしてコロナ禍からの復興のカギとして「グリーン・リカバリー」が世界中で広がりを見せ、日本政府も2050年カーボンニュートラルを宣言しました。コロナ禍の経済低迷によってCO₂排出量は一時的に減少しましたが、残念ながら減少量は極めて限定的で、地球温暖化対策としてカーボンリサイクルを含めた新たなイノベーション創出が欠かせないことが明らかとなりました。

我々の目の前には気候変動問題を筆頭に、海洋プラスチック問題、食糧・水問題、パンデミックなどの世界的規模の解決すべき課題が山積みされています。このような時代の変化に鋭敏に対応し、世界規模の課題への解決策を提供していくことが、「化学」に最も期待されていることだと考えています。

これまで、化学産業は大気や海を汚染するものの代名詞のように扱われてきましたが、その反省を活かすことで、青く澄んだ海やホテルが生息するきれいな淡水や空気を取り戻すことが出来ました。つまり、化学産業は自ら招いた環境破壊に対し、自らの経験と技術を活用して solution provider としての役割を果たしたのです。「化学」の力をもってすれば、世界規模の課題に対しても必ずや解決策を見出すことが出来るで

しょう。そのためにも、以下を実現できるような環境を整備し、新たなイノベーションを産み出す「場」を提供できるよう、日本化学会としての活動を推進しています。

- ①最先端の研究活動を継続的に推進し、新たなイノベーションの種となる化学的発見・技術開発を加速する。
- ②研究成果を着実に社会実装するために異領域（学問間、産学官、国内外）との連携・融合など（オープンイノベーション）が重要であることを認識し、自らの研究活動を推進する。
- ③次世代を先導していく化学系人材を育成するとともに、日本の研究環境をより魅力的なものへと発展させる。

これらを実現するためには、「化学」の叡智を結集することも必要です。そのために、化学系の学協会同士の交流もさらに深化させる必要があります。これまで以上の連携強化を進めています。日本化学会を構成する会員の充実・多様化も欠かせません。また、日本化学会の運営改革を継続し、事務局機能の強化も着実に進めています。会員の皆様の積極的なご支援とご協力をお願い申し上げます。

公益社団法人日本化学会 会長
株式会社三菱ケミカルホールディングス 取締役会長
小林喜光

日本化学会中長期基本戦略

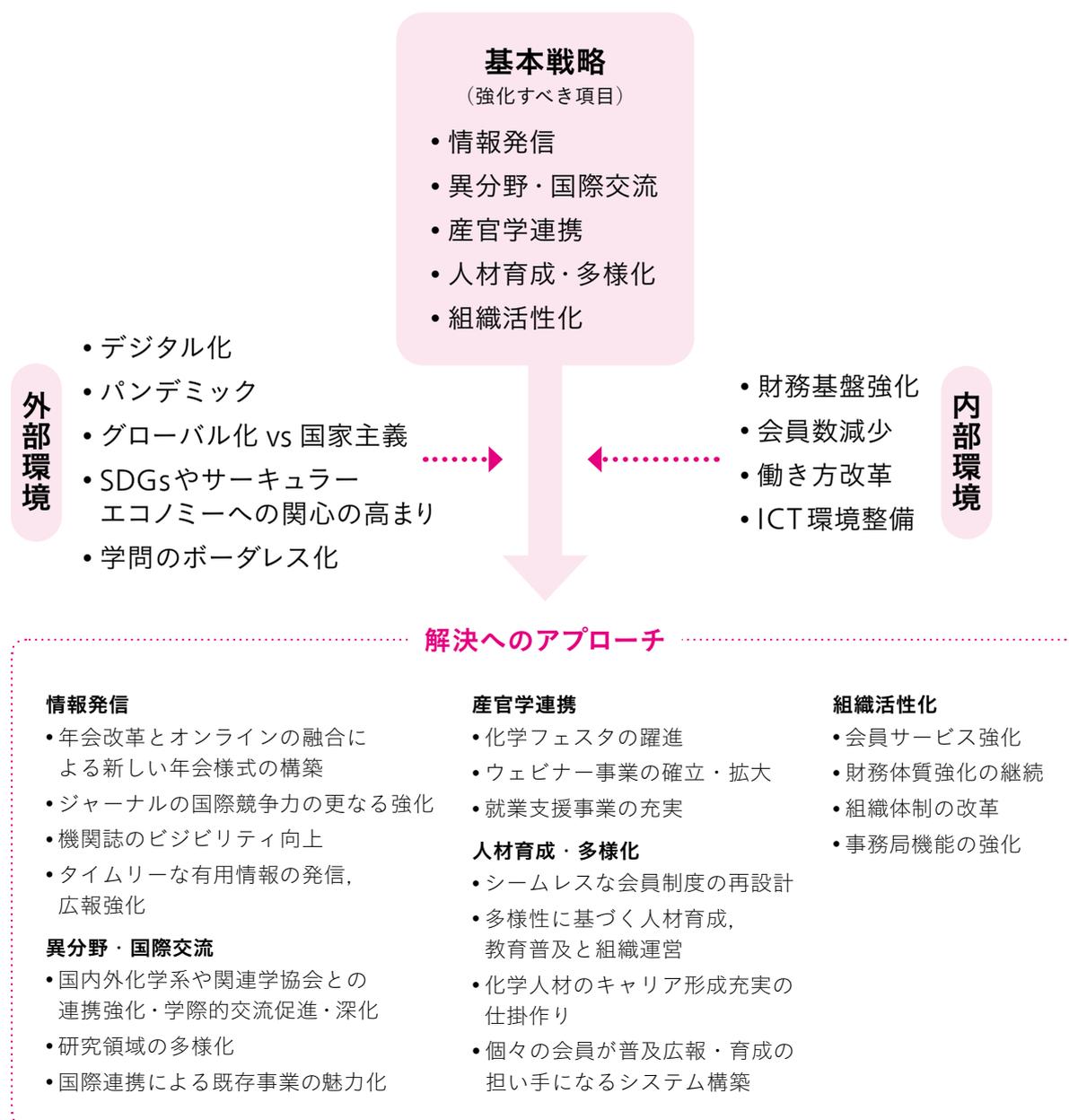
(2020～2025年)

基本理念

日本化学会は、産官学の化学に関わる会員により構成され、世界を先導する研究および技術開発による基礎科学の発展ならびに社会実装を通して、持続可能な社会の構築に貢献します。

基本理念から導かれる 基本戦略

基礎科学の発展 / 社会実装の実現



2020年度 COVID-19 に関連した 化学会の対応・2021年度活動方針

2020年度 COVID-19 に関連した 化学会の対応

2020年度は COVID-19 の影響で様々なイベントが中止・延期またはオンライン開催になりました。2021年度は状況を見つつ最善の方法でイベントを開催していきたいと思っています。

皆様のご協力よろしくお願いたします。

対応・一部抜粋

- CSJ 化学フェスタのオンライン開催 [上]
- 春季年会の現地開催中止 [下・左]
- 論文誌掲載論文の Full-Text HTML、
機関誌の WEB 無料公開 [下・中]
- 化学オリンピック・グランプリの
WEB リモート開催 [下・右]



2021年度活動方針

重点項目	
情報発信	第 102 春季年会に向けた新しい年会様式の検討と実施 ジャーナルの徹底発信／機関誌のビジビリティ向上
異分野・国際交流	化学系学協会との交流強化 Pacifichem2021 の準備と本会議の開催
産官学連携	CSJ 化学フェスタの持続的運営と更なる展開の検討 ウェビナー事業の試行
人材育成・多様化	会員制度のシームレス化に向けた課題の抽出 多様性に関する課題抽出および実行計画の策定
組織活性化	会員サービス向上と組織的な会員維持への対応の検討 ICT 化による機能強化と効率化、働き方改革の推進



春季年会・CSJ化学フェスタ

本会では、春と秋に二大イベントを開催しています。

日本はもちろんのこと、世界各地から化学という共通点を持った
様々な分野の研究者が一堂に会す化学系学会最大級のイベントです。

インターネットや文献などの情報収集ではできない「ディスカッション」「face to faceの情報交換」
「産学官の垣根を超えた人脈作りの場」として活用してもらうことを目的として開催しています。

春季年会

国内外から7,000名を超える参加者と情報がダイナミックに交わる国内最大級の学術イベントとして毎年3月中旬～下旬に4日間連続で開催されます。講演件数は4,500件を超え、最先端の化学技術に関する情報を密に、深く、広く、得ることができます。また、国際化の一環として英語化を推進しており、年々英語での発表が増えていきます。第100春季年会(2020)は中止となりましたが、第101春季年会(2021)はオンラインにて開催します。年会改革のもと、A講演とB講演を分けたセッション構成とし、聴講しやすい環境づくりを目指しています。

2020年度実績

● 第100春季年会

中止(講演は講演予稿集の発行をもって成立)

会場: 東京理科大学 野田キャンパス(千葉県)



[上] ポスター・付設展示会(2019年度) [下] 学会賞受賞講演(2019年度)

CSJ 化学フェスタ

2011年の世界化学年に秋季事業の一環として「産学官の交流深耕」と「化学の社会への発信」を目的にスタートしました。毎年10月中旬～下旬に3日間連続で開催され約3,000名が参加します。参加者は産学官それぞれの立場から200件を超える「エネルギー・資源・環境」, 「新素材」, 「バイオ」分野の最新の化学と技術を紹介するテーマ企画講演および約1,000件の学生ポスター発表を聴講できます。記念すべき第10回を迎えた2020年は、初めての試みとしてWEB会議システム（Zoom, Remo）を活用し全てをオンラインにて開催しました。会社、大学、自宅、また海外からも参加でき、画面越しではあるもののリアルタイムでのディスカッションを実現し、参加者からは好評のイベントとなりました。今後も、現地開催、オンライン開催に関わらず産学官がさらに交流を深めていけるよう様々な挑戦をしていく予定です。

2020年度実績

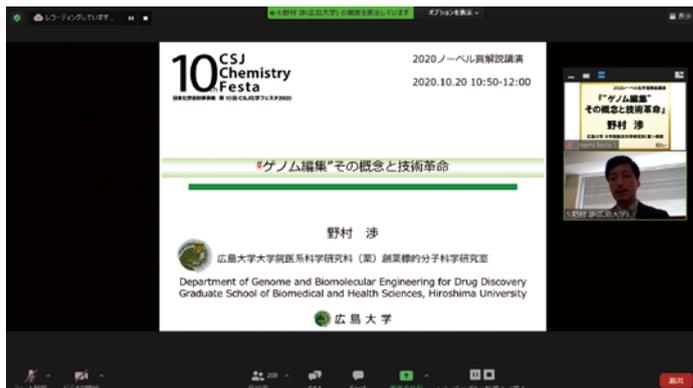
● 第10回CSJ化学フェスタ

参加者数：2,953名

講演件数：1,182件

会場：オンライン開催 (Zoom, Remo)

[上] タワーホール船堀に設置された大会本部
[中] Remoによる交流会
[下] Zoomによるノーベル賞解説講演市民講座



市民に開かれた講座

春季年会、CSJ化学フェスタでは会員向けだけでなく、市民の皆様に向けた講座を開催しています。普段、化学に関わりのない一般市民の方々に化学にもっと親しみを持ってもらおう、化学の有益性を知ってもらおうということが目的です。子供向けの講座は特に人気で毎回定員を超える応募を頂戴しています。2020年度はCOVID-19の影響で開催できたイベントが僅少でしたが、2021年度以降の再開に向け準備をしています。

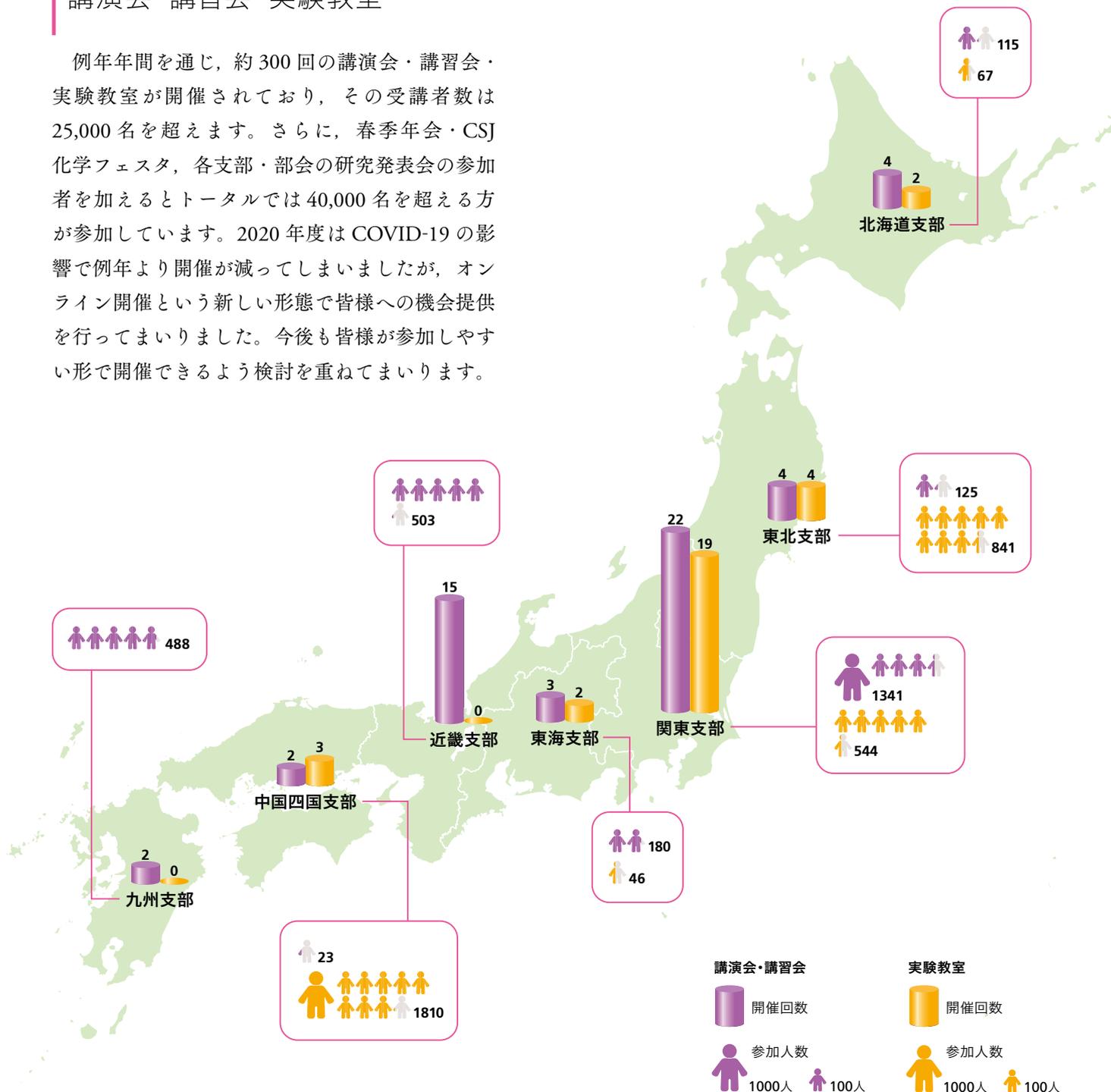
CSJ 化学フェスタ市民講座

講演会・講習会・実験教室の開催

変化の激しい現代社会では、最新の専門知識が求められる一方、その高度な専門知識を活かすだけの基礎知識も求められるという二面性を持っています。前述の春季年会、CSJ化学フェスタ以外にも、研究者、教育者にとって有益な情報をもたらす機会を全国規模で多く提供しています。

講演会・講習会・実験教室

例年年間を通じ、約300回の講演会・講習会・実験教室が開催されており、その受講者数は25,000名を超えます。さらに、春季年会・CSJ化学フェスタ、各支部・部会の研究発表会の参加者を加えるとトータルでは40,000名を超える方が参加しています。2020年度はCOVID-19の影響で例年より開催が減ってしまいましたが、オンライン開催という新しい形態で皆様への機会提供を行ってまいりました。今後も皆様に参加しやすい形で開催できるよう検討を重ねてまいります。



R&D 懇話会

先端化学技術の話題について、2名の講師に講演いただく小規模セミナーです。講演会および意見交換会で、講師・参加者および参加者相互の交流深耕を図ることも大切な目的の一つです。近年は講演会だけでなく、研究所の見学会も企画され、業務知識として必要な方だけでなく、最新の化学技術に興味がある方など多くの方が参加しています。

2020年度実績

開催回数：6回
参加者数：143名
会場：オンライン開催 (Zoom)



Zoomによる講演

化学技術基礎講座

当該分野の知識習得が必要な企業の技術系新入社員、中堅技術者などを対象とした2日間の短期集中講座です。いずれの講座も分かりやすく丁寧な講義で受講者に好評です。2020年は初のオンライン開催（ライブ配信とオンデマンド配信のハイブリット方式）となりましたが、日本全国から多数の方に参加いただき好評を得ました。

2020年度実績

開催回数：1回
参加者数：36名
会場：オンライン開催 (Zoom)



Zoomによる講演

化学安全スクーリング

化学実験を行う大学、研究所等の安全管理担当者、指導者や化学企業の研究所、プラント、生産現場で安全管理に関わるすべての方を対象とした化学実験に関わる安全と衛生に関して総合的に学ぶ毎年恒例の講習会です。ここで得られる情報は、参加者自身の安全管理はもちろんのこと、職場での安全教育、安全管理に活用されています。

2020年度実績

開催回数：1回
参加者数：31名
会場：オンライン開催 (Zoom)



化学会館での講演（2019年度）

化学を広める・ 未来の化学者を育てる

お子さんから大人まで多くの方に化学を身近に感じてもらいたい、魅力を知ってもらいたい、という想いのもと、様々な取り組みを実施しています。

2020年度はCOVID-19の影響で開催できたイベントが僅少でしたが、2021年度以降の再開に向け準備をしています。

実験教室など

未来を担う子供たちに化学の面白さを知ってもらうため、日本各地で実験教室や講演会などを実施しています。学校ではできないような体験ができると大変好評です。

2020年度実績

開催件数：30件

参加者数：約3,300名

化学の日(10月23日)

10月23日は化学の日です。この日はアボガドロ定数(1 molの物質中に存在する粒子の数 = 6.02×10^{23})に由来します。2013年10月、日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会の4団体は、化学および化学産業の魅力、社会への貢献などを広く知っていただきたいという想いのもと、10月23日を「化学の日」その日を含む月曜日から日曜日までの1週間を「化学週間」と制定しました。この時期には日本各地で化学の日にちなんだイベントを開催しています。化学の理解拡大が進み、化学の道へ進む子供たちが増えることを望んでいます。



[上・下] 課題探究入門講座
(冬講座) - 化学マジック -
(愛知県)



実験ガールズ2020 (青森県)

化学だいすきクラブ

小・中学生を対象に、情報や体験機会の提供を通じて子どもたちが化学を好きになり、将来化学の分野で活躍する人材に育ててほしいという想いから2004年に発足しました。本事業は、多くの方のご支援のもと、寄付金で運営されています。

2020年度実績

ニュースレター発行：3回

体験型イベント：(COVID-19の影響で開催中止)

メンバー：2,157名



ニュースレター

化学グランプリ・ 国際化学オリンピック

1998年、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として「化学グランプリ」が開催されました。現在では約4,000名の参加者が化学の力を競い合っています。(2020年度除く)また、本大会で選抜された高校生は毎年7月に10日間の予定で開催される国際化学オリンピックに参加することができます。2021年は大阪大会がリモートで開催される予定です。

2020年度実績

- 化学グランプリ (COVID-19の影響でオンライン開催)

[一次選考] 参加者数：1,640名

[二次選考] 参加者数：117名

- 第52回国際化学オリンピック トルコ大会

(COVID-19の影響でオンライン開催)

代表生徒4名派遣(銀メダル4)



[上] 化学グランプリ・オンライン試験

[下] 国際化学オリンピック・オンライン試験



中高生会員

2016年、化学に関心が高い中高生の皆さんのために「中高生会員制度」をスタートさせました。年会へ無料参加できるほか、メルマガで「化学と工業」「化学と教育」などのピックアップ記事や化学イベント情報も豊富に提供しています。ピックアップ記事・イベント情報は中高生会員専用のWEBサイトでご覧いただけます。



中高生会員特典

キャリア支援

「学生」、「企業」、「大学」、それぞれが
face to faceで正しい情報を交換することが重要であるという考えのもと、
キャリア支援事業を行っています。

企業合同説明会・ 研究講演会

企業合同説明会は、就職活動の効率化・短期化を目的に「化学」に特化し毎年3月に開催するもので、法人会員の企業、化学系等専攻の学部生・大学院生が多数参加します。企業、学生のマッチングの場として、高い評価を得ています。

2020年度実績

- 化学系学生のための企業合同説明会 (COVID-19のため中止)
- キャリアデザイン研究講演会 (近畿支部)
イブニングイベント (11~12月計10回)
企業11社、学生延べ約180名参加
会場：オンライン開催 (Zoom)
- 本イベント (1月)
企業8社、学生約130名参加
会場：オンライン開催 (Zoom, Remo)



[上] 企業合同説明会
(2019年度)
[下] キャリアデザイン
研究講演会告知バナー



就職交流会

就職交流会は、大学の就職担当教員と企業人事担当者の情報交換を目的に毎年冬に開催されています。参加者からは『非常に効率よく大学就職担当の先生方と交流できた』『オンラインであったため、遠方の方との交流が容易に出来てよかった』といった感想を頂戴しています。

2020年度実績

- 第24回就職交流会
74名参加 (32大学, 21社)
会場：オンライン開催 (Remo)

Remoを使用した
情報交換



企業現場見学会

2017年から学生会員を対象に企業現場見学会を開催しています。工場や研究所の見学やそこで働く方との交流を通じ、企業で働くイメージを持ってもらうことを目的としています。参加した学生からは『大学での研究と会社での研究を結び付けて考えることができた』『後輩にも是非勧めたい』というような感想を頂戴しています。2020年度はCOVID-19の影響で中止となりましたが、2021年度以降の再開に向け準備をしています。



花王株式会社和歌山工場（2018年度）

キャリアセミナー

企業で活躍する先輩方と学生とがざっくばらんに質疑応答をするセミナーです。春季年会の会期中などに開催されています。学生にとって自身のキャリア形成を考える良い機会となっています。また、企業側としても学生の不安や疑問を聞けるため、自社アピールのポイントを整理できると好評です。2020年度はCOVID-19の影響で開催できませんでしたが、2021年春のオンラインでの実施に向け準備をしています。



[上・中] 第99春季年会ランチョンセミナー（2019年度）

[下] 化学フェスタ（2018年度）



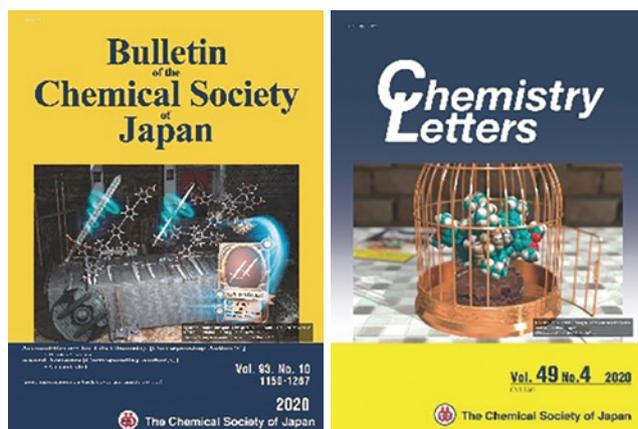
論文誌・出版

1891年の「化学訳語集」刊行以降、様々な出版事業を行っています。
機関誌・英文論文誌・書籍を発行し、社会の変化を捉えた誌面の充実、
最新の研究や生活の中の化学を社会に届けるための情報発信に取り組んでいます。
2020年12月上旬には16年ぶりに全面改訂を行った『化学便覧 基礎編改訂6版』を刊行しました。

化学会ジャーナルの発行

英文論文誌を世界へ発信

Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) (1926年創刊、現在94巻、年間200論文ほど掲載)とChemistry Letters (CL) (1972年創刊、現在50巻、年間400論文ほど掲載)の2誌を発行し、2019年1月より完全電子化しました。世界から見えるジャーナルを目指して、メールでの論文PR、国際会議での広告掲載やフライヤーの配布、ジャーナル名を冠した賞の授与を行っています。BCSJでは、Frontiers of Molecular Scienceをテーマに、CLでは、創刊50周年記念でのVol. 50 Commemorative Highlight ReviewでのWEB特集を行っています。国内外を合わせて460機関が購読するなど、広く読まれています。



IFのトレンド

2020年に発表となったImpact Factor (IF)はBCSJが4.488で過去最高値を更新しました。CLは1.361でした。

SNS等を活用してのビジビリティ向上

2018年4月からTwitterを用いての論文PRや国際会議等でのジャーナルPRのお知らせを配信しています。フォロワー数は1,000名を超えました。今後もSNSを用いての情報発信も強化していく予定です。



機関誌

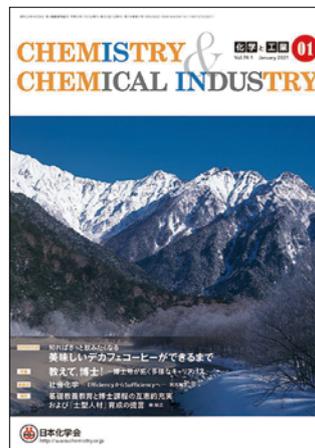
会員向け「化学と工業」, 「化学と教育」を毎月発行しています。

化学と工業

化学・化学工業分野の動きを他分野の方にわかるようにやさしく解説しています。本会と会員, 会員同士を結ぶ冊子です。

化学と教育

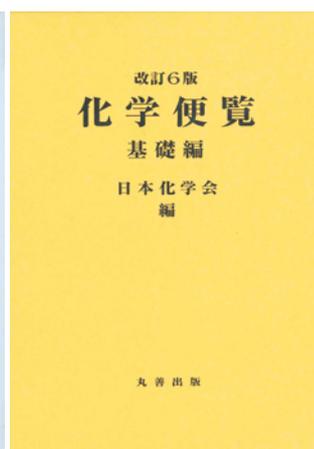
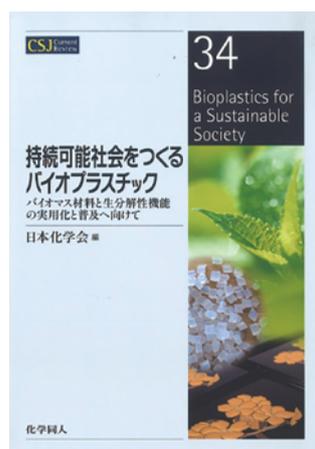
化学の分野を中心に話題の研究や技術をやさしく解説した特集と, 教育現場に役立つ化学実験の紹介などの連載記事を掲載しています。



図書

日本化学会では「化学便覧」「実験化学講座」「化合物命名法」「カレントレビュー」「化学の要点」など, 数多くの刊行物の編集・刊行で化学分野の発展に貢献しています。

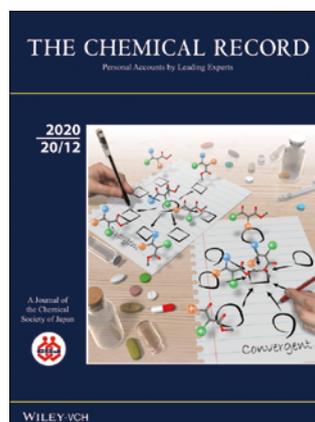
2020年12月上旬には16年ぶりに全面改訂を行った『化学便覧 基礎編改訂6版』を刊行しました。



海外化学会との連携

海外大手出版社やアジアの化学会と連携し, 英文論文誌を発行しています。

また, 2019年より海外化学会(米, 英, 独, 中)と共同で化学系プレプリントサーバ「ChemRxiv™」の支援・開発・運営しています。



社会に向けた様々な取り組み

時代の変化と共に学会に求められるものも変わります。
本会においても、その変化に対応するべく様々な取り組みを行っています。

吉野彰研究助成

リチウムイオン電池開発における革新的な功績により2013年度にThe Global Energy Prize（2002年にロシアで創設されたエネルギー分野のノーベル賞といわれる最も権威ある賞）を受賞された吉野彰氏（旭化成株式会社、日本化学会名誉会員）が、その報奨金をエネルギー、環境、資源分野の研究活動の活性化のために有効に使いたいとの思いから本会に寄付され、その基金をもとに2014年度に「吉野彰研究助成事業」が創設されました。募集テーマについては毎年吉野先生自ら設定されております。

2020年度募集テーマ

『ゲノム育種、ゲノム編集等のバイオ新技術を駆使した高効率光合成生物の探索』

助成対象者：伊福 健太郎（京都大学 大学院生命科学研究所）

研究題目：実用藻類ツノケイソウのゲノム情報とゲノム編集を用いた光合成の効率化



化学遺産関係

委員会への寄付をもとに著名な化学者との対話冊子の作成や化学関連の文化遺産を調査、認定、発表をしています。2020年は3件が化学遺産に新規認定されました。

2020年度認定化学遺産

- 第055号 日本の石油化学コンビナート発祥時の資料
- 第056号 苦汁・海水を原料とする臭素製造設備と磁製容器
- 第057号 再製樟脳蒸留塔

〔上〕ナフサ水蒸気分解装置1号機（三井化学所蔵）
〔下〕磁製臭素容器と容器図面（東ソー所蔵）



グローバル化

化学の世界で国際的に活躍できる人材育成、研究推進を強力にサポートしています。また、持続性社会の確立、SDGsの達成、地球環境の保全などの課題に、基幹科学としての「化学」の後ろ盾を担う本会が「solution provider」としてどのような貢献と解決策を提示できるか、政策への提言やCS3 (Chemical Science and Society Summit) の場を通じて世界の化学会と協調して情報発信を行っています。

国際的連携・協調、異文化交流

化学の国連ともいふべき IUPAC^{*1} や、アジア化学連盟；FACS^{*2} との国際協調、また ACS^{*3} と密接に連携し顕彰する Nakanishi Prize、RSC^{*4} との二国間協定に基づく PCCP Prize 受賞選考、国際シンポジウムなどを行っています。また様々な国際会議にも出席し学会の国際競争力の向上と認知度拡大に貢献しています。

- ※1 国際純正・応用化学連合
- ※2 Federation of Asian Chemical Societies
- ※3 アメリカ化学会 ※4 英国王立化学会



[上] IUPAC2019
[下] 2019年CS3白書公開(2020年6月3日(英国時間)公開)



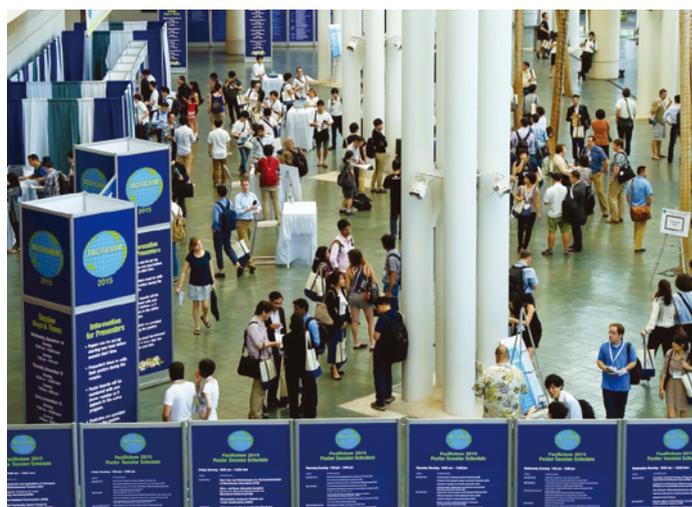
Pacificchem (環太平洋国際化学会議) の開催

世界化学界最大級の国際会議 Pacificchem をハワイ・ホノルルで5年毎に開催しています。日本・アメリカ・カナダの設立3学会を主軸に、中、韓、豪そしてNZの世界7化学会が共同主催します。2020年は本会主催で第8回目を開催する予定でしたが、COVID-19のパンデミックの影響で2021年に延期開催となりました。

今回はコロナ禍で新しい選択肢となったオンラインでのイベント開催と現地開催を並行するハイブリッドスタイルでの開催とし、12月16日から6日間、13,000件を超える講演を予定します。

開催までの流れ(2021年)

- 1～4月：講演申し込み
- 8～10月：参加登録
- 10月：講演プログラム公開
- 12月16日：開会式(基調講演：川合真紀前会長)、
その他ノーベル賞受賞講演など注目講演を予定
- 12月21日：閉会式



[上] 第7回 Pacificchem (2015年12月ホノルル・ハワイ)
[下] 第8回 Pacificchem ポスター



表彰事業

化学の基礎または応用に関する研究業績、並びに我が国の化学工業の技術開発、化学教育上の業績、本会活動への功績について、毎年各賞の選考委員会において厳正な選考が行われ、理事会の審議を経て決定、受賞者の表彰を行っています。

2020年度各賞受賞者（敬称略）

第73回 日本化学会賞

阿尻雅文（東北大WPI-AIMR）
大井貴史（名大ITbM）
城戸淳二（山形大院有機材料システム）
城 宜嗣（兵県大院生命理）
馬場嘉信（名大未来社会創造機構）
渡邊正義（横国大先端院）

第38回 学術賞

朝倉清高（北大触媒研）
植村卓史（東大院新領域）
久保孝史（阪大院理）
高橋雅英（阪府大院工）
辻 勇人（神奈川大理）
中田雅久（早大理工院）
西林仁昭（東大院工）
林 晃敏（阪府大院工）
船津公人（東大院工，奈良先端大）
若宮淳志（京大化研）

第70回 進歩賞

石田洋平（北大院工）
大洞光司（阪大院工）
窪田 亮（京大院工）
熊谷将吾（東北大院環境）
坂牛 健（物材機構）
田中隆行（京大院理）
中村貴志（筑波大数理物質）
原 潤 祐（北大院理）

第9回 女性化学者奨励賞

酒田陽子（金沢大理工）
畑中美穂（慶大理工）

第69回 化学技術賞

大西由夏
木下敬文
内藤高朗
高木俊輔
高橋昭彦
（以上、花王）

第26回 技術進歩賞

北畑雅弘（東レ）

第45回 化学教育賞

吉祥瑞枝
（東理大，サイエンススタジオ・マリー）
須貝 威（慶大薬）
丸岡啓二（京大院薬）

第38回 化学教育有功賞

窪田篤人（仙台青陵中等教育学校）
中山慎也（宮城教大教育）
宮内卓也（学芸大）

第39回 化学技術有功賞

中村永研（分子研）

第16回 功労賞

該当なし

企業・団体からのご支援

化学に関連する

多くの企業、団体のご支援をいただいております。

100口以上

TORAY

MITSUBISHI
CHEMICAL

KaO

FUJIFILM

50口以上

AsahiKASEI

AGC

kuraray

SHOWA
DENKO

住友化学

DAICEL
株式会社ダイセル

C&C
Color & Comfort

DIC株式会社

TOSOH

東ソー株式会社

MARUZEN
PUBLISHING

Mitsui Chemicals

10～49口

化学

(株) ADEKA
荒川化学工業(株)
宇部興産(株)
(株) 大阪ソーダ
(株) カネカ
関西ペイント(株)
クマイ化学工業(株)
(株) クレハ
興和(株)
三洋化成工業(株)
JSR(株)
JNC(株)
塩野香料(株)
昭和電工マテリアルズ(株)
信越化学工業(株)
住友精化(株)
住友パークライト(株)

積水化学工業(株)
セントラル硝子(株)
高砂香料工業(株)
デンカ(株)
東亜合成(株)
東洋インキSCホールディングス(株)
(株) トクヤマ
日亜化学工業(株)
日油(株)
日産化学(株)
日鉄ケミカル&マテリアル(株)
日本化学工業(株)
日本化薬(株)
(株) 日本触媒
日本ゼオン(株)
日本曹達(株)
三菱ガス化学(株)
ライオン(株)

医薬品

アステラス製薬(株)
小野薬品工業(株)
協和キリン(株)
塩野義製薬(株)
第一三共(株)
大正製薬(株)
大日本住友製薬(株)
田辺三菱製薬(株)
中外製薬(株)
Meiji Seika ファルマ(株)

ゴム製品

(株) ブリヂストン
横浜ゴム(株)

食料品

味の素(株)
サントリーホールディングス(株)

石油・石炭製品

出光興産(株)
ENEOS(株)

繊維製品

帝人(株)

機械

ダイキン工業(株)

建設業

日揮グローバル(株)

公的研究機関

(国研) 理化学研究所

精密機器

(株) 島津製作所

電気機器

コニカミノルタ(株)

非鉄金属

住友電気工業(株)

口数、業種別に50音順・敬称略(2021年4月1日現在)

他にも幅広い業種(電気・ガス、鉄鋼、パルプ・紙、輸送用機器等)を含む多くの企業・団体にご支援いただいております。

詳細は下記URLをご参照ください。(422社)

<https://www.chemistry.or.jp/societyguide/organization/corporationlist.html>

化学会概要

沿革

1878年	化学会創立，翌年，東京化学会と改称
1898年	工業化学会創立
1921年	東京化学会が日本化学会と改称
1941年	社団法人に移行
1948年	日本化学会と工業化学会が合併
1978年	創立100周年記念
1991年	化学会館竣工
2003年	創立125周年記念（天皇皇后両陛下ご臨席）
2011年	公益社団法人に移行
2018年	創立140周年
2020年	化学会館改修

会員（2021年2月末現在）

約2.4万人の会員を擁し、国内自然科学系の学会としては最大の規模を誇る。法人正会員は422法人。

会員種	
個人正会員	17,128
学生会員	4,318
中高生会員	49
教育会員	1,558
名誉会員	69
法人正会員	422
公共会員	356
合計	23,900

目的・事業

（目的）

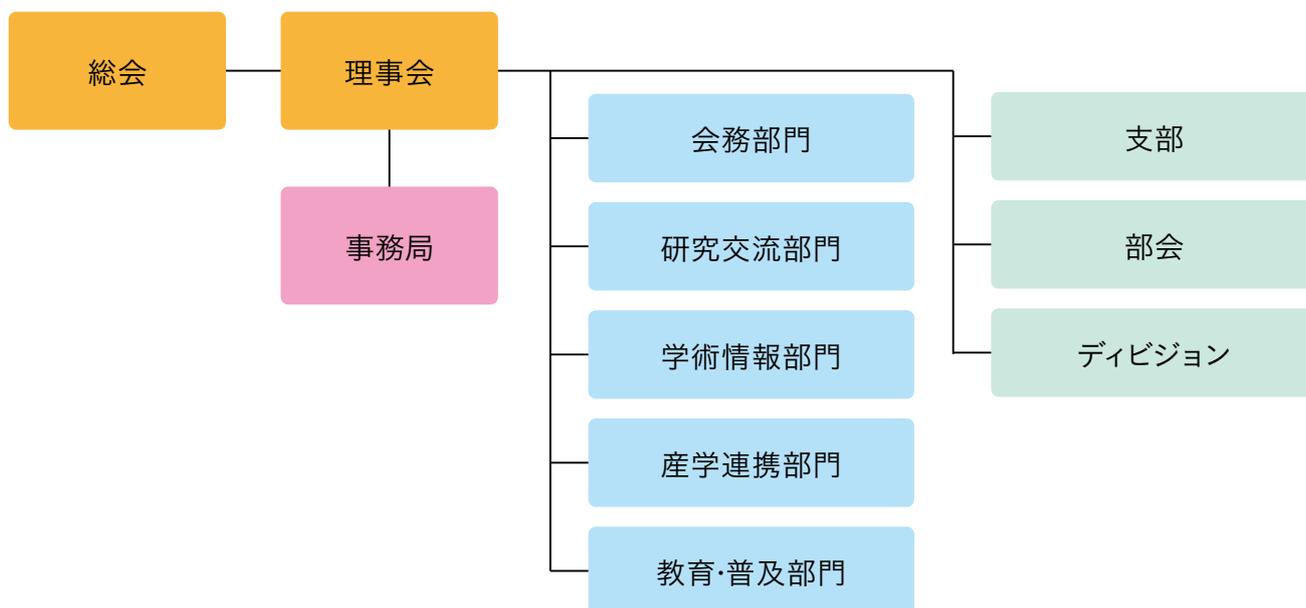
本会は、化学に関する、学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することを目的とする。（定款第3条）

（事業）

本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 学術集会の開催
 - (2) 会誌並びに学術図書の刊行
 - (3) 内外の関連学協会との連携，協力
 - (4) 研究の奨励及び研究業績の表彰
 - (5) 産学，産産交流並びに連携の推進など産業の振興に資する事業
 - (6) 化学知識の普及に資する事業
 - (7) 化学教育の振興など人材の育成に資する事業
 - (8) 化学の振興に関する政策提言
 - (9) 科学及び技術に関する調査，研究
 - (10) 科学及び技術に関する研究の助成
 - (11) その他本会の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、日本全国及び海外において行うものとする。（定款第4条）

組織図



役員 (2021年5月26日現在)

会長	小林喜光 (㈱三菱ケミカルホールディングス)	理事	北山健司 (㈱ダイセル)
		理事	君塚信夫 (九州大学)
筆頭副会長	三浦雅博 (大阪大学)	理事	近藤輝幸 (京都大学)
		理事	住田康隆 (㈱日本触媒)
常務理事	澤本光男 (中部大学)	理事	関根理香 (静岡大学)
		理事	中井浩巳 (早稲田大学)
副会長	梅谷博之 (帝人㈱)	理事	中嶋 敦 (慶應義塾大学)
副会長	織田佳明 (住友化学㈱)	理事	早川慎二郎 (広島大学)
副会長	塩野 毅 (広島大学)	理事	林雄二郎 (東北大学)
副会長	塩谷光彦 (東京大学)	理事	原 亨和 (東京工業大学)
副会長	渡利広司 (産業技術総合研究所)	理事	福岡 淳 (北海道大学)
		理事	宮崎あかね (日本女子大学)
理事	安中雅彦 (九州大学)	監事	北村二雄 (佐賀大学)
理事	市川淳士 (筑波大学)	監事	久新荘一郎 (群馬大学)
理事	岡添 隆 (AGC ㈱)	監事	茶谷直人 (大阪大学)
理事	岡野知道 (ライオン㈱)	監事	西本 信 (旭化成㈱)
理事	小倉 賢 (東京大学)		
理事	生越専介 (大阪大学)		
理事	長田裕之 (理化学研究所)		

計 31 名

会計報告 (2020年度)

貸借対照表 (要約版)

2021年2月28日現在

科目	(単位：千円)
〈資産の部〉	
流動資産	239,112
固定資産	2,065,730
基本財産	666,902
積立資産 (一般正味)	392,839
積立資産 (指定正味)	570,554
その他固定資産	435,435
資産合計	2,304,842
〈負債の部〉	
流動負債	230,545
固定負債	214,664
負債合計	445,209
〈正味財産の部〉	
指定正味財産	570,554
一般正味財産	1,289,079
正味財産合計	1,859,633
負債及び正味財産合計	2,304,842

正味財産増減計算書 (要約版)

2020年3月1日～2021年2月28日

科目	(単位：千円)
〈経常収益〉	
受取会費等 (会費・部会費等) *論文会費収益含む	347,336
イベント関連収益 *広告掲載収益含む	137,177
補助金・寄付金等収益	71,005
賃貸関連収益	58,572
その他収益	19,312
経常収益 計	633,402
〈経常費用〉	
事業費	615,364
管理費	67,927
経常費用 計	683,291
投資有価証券評価損益	672
当期経常増減額	△ 49,217
〈経常外収益〉	
投資有価証券売却益 他	7,922
経常外収益 計	7,922
〈経常外費用〉	
解体撤去工事費	42,344
経常外費用 計	42,344
当期経常外増減額	△ 34,422
法人税等	70
当期一般正味財産増減額	△ 83,709

受取補助金内訳

交付者	(単位：千円)
日本学術振興会 (国際情報発信強化)	35,300
東京応化科学技術振興財団 他	4,166
計	39,466

受取寄付金内訳

	(単位：千円)
化学振興事業	469
化学だいすきクラブ事業	2,799
化学遺産事業	375
計	3,643

ノーベル賞受賞会員



©*The Nobel Foundation.

2019年
受賞

化学賞

吉野 彰

受賞理由: リチウムイオン電池の開発
1999年 化学技術賞受賞

2015年
受賞

生理学・医学賞

大村 智

受賞理由: 線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見

2014年
受賞

物理学賞

天野 浩

受賞理由: 高輝度青色発光ダイオードの発明

2014年
受賞

物理学賞

赤崎 勇

受賞理由: 高輝度青色発光ダイオードの発明

2010年
受賞

化学賞

根岸英一

受賞理由: 有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング
1999年 日本化学会賞受賞

2010年
受賞

化学賞

鈴木 章

受賞理由: 有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング
1989年 日本化学会賞受賞

2008年
受賞

化学賞

下村 脩

受賞理由: 緑色蛍光タンパク質の発見とその応用

2002年
受賞

化学賞

田中耕一

受賞理由: 生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発

2001年
受賞

化学賞

野依良治 (日本化学会 元会長)

受賞理由: 不斉触媒による水素化反応の研究
1985年 日本化学会賞受賞

2000年
受賞

化学賞

白川英樹

受賞理由: 導電性高分子の発見と開発

1981年
受賞

化学賞

福井謙一 (日本化学会 元会長)

受賞理由: 化学反応過程の理論的研究



公益社団法人
日本化学会

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
TEL: 03-3292-6161 FAX: 03-3292-6318
<http://www.chemistry.or.jp/>

デザイン: 株式会社マツダオフィス
印刷: 株式会社三永印刷

2021.06.

